

過去の委員意見

①(7/31「プラン改定についてのご意見をお聞きする場(第2回)」)

資料名	該当箇所	委員名	意見
資料1「改定素案(案)」	全体	松田委員	和暦のあとに、括弧書きで西暦を入れた方がよい。
		松田委員	各グラフについて、県民ニーズ調査が出典の場合、男女別データを入れた方がよい(内訳で男性〇%、女性〇%を入れる)。複数回答の場合は、その旨を記載した方がよい。
		神尾部会長	1ページ「改定の趣旨」は、6ページ以降の「3 改定の考え方」に繋がりがよくないので、記述やグラフを考慮した方がよい。
		戸山委員	神奈川の流入と流出、収入と独身、世帯の構成など調査し、裏づけを持った記載にしてほしい。
		松田委員	内閣府の白書等を用いる場合は、出典や注意書き等を入れた方がよい。
		神尾部会長	次期プランから新たに取組む内容は、強調した方がよい。
	目次、1P以降	松田委員	「神奈川県」「神奈川」などばらつきがあるが、「神奈川」の方がよい。
	1P 2(2)神奈川における男女共同参画	神尾部会長	「神奈川における男女共同参画をめぐる状況」に、「男女共に結婚を躊躇する状況が伺われ」とあるが、根拠が不明。標記としてそこまで踏み込めるのか、再度検討した方がよい。
		戸山委員	「男性中心型労働慣行」は、「限定型」の方がよい。
	2Pの図(神奈川県の特徴)	松田委員	「管理職に占める女性の割合」(全国40位)には、あえて東京の順位(全国10位)を入れなくてよい。
	2p 3(2)女性の活躍と参画の促進	神尾部会長	グラフ「様々な分野の政策・方針決定過程における女性の参画」に、防災委員の割合を入れると、7ページ「改定の考え方」(1)重点目標1の防災関係の記載に繋がるので、入れるとよい。
	3p 3(2)女性の就業継続	神尾部会長	グラフ「職業を持つことについての意識調査」の結果(全国47位)と、グラフ「女性無業者の就職希望状況(30歳代以降の就業希望が全国平均より高い)」は、両極端のデータで見せ方が難しいが、都市部では育児と介護が40代女性に大きな負担となっている。介護のデータはないかもしれないが、記述として介護・ダブルケアについて入れた方がよい。
	4p 3(3)ワーク・ライフ・バランスの実現	松田委員	神奈川県における介護離職の実態のデータがわかるとよい。
		神尾部会長	神奈川県における介護離職の実態のデータがわかるとよい。
	6p 3(6)男女共同参画に関する意識	松田委員	グラフ「働く女性の実態」に、回答の4位だった「能力や成果があっても昇進や昇給が遅い、または望めない」を入れた方がよい。
		松田委員	グラフ「男性の家事育児・地域活動の参画」は、男性は昇進の悪影響を考慮した結果「上司・同僚の理解が必要」と回答している可能性があるため、それを表すような回答結果も入れるとよい。
		戸山委員	グラフ「職業を持つことについての意識調査」は、理由が分かると県の実態が分かるので、入れるとよい。
		神尾部会長	グラフ「職業を持つことについての意識調査」に関連して、日本の場合女性が就業継続を選択することに困難が伴うため、施策が必要。
		神尾部会長	グラフ「職業を持つことについての意識調査」は、具体的な理由が分かるのであれば記載するとよいが、意識について明確な理由をあげるのは難しいので、事実だけの記載にした方がよい。
	8p 基本目標など	神尾部会長	基本目標、基本理念、柱の名称については、事務局案でよい。
	10p以降(具体的なプランの内容)	神尾部会長	数値目標について、「県」「民間」という表記は分かりにくいので、なくてもよい。
10p 重点分野1	松田委員	参考数値「県職員の部分休業、育児休業及び育児休暇の取得状況」に注釈を入れた方がよい。	
14p 重点分野3	松田委員	参考数値に「神奈川の犯罪被害者サポートステーションの周知度」を入れるとよい。昨年度の県民ニーズで非常に数値が低かったため。	
	松田委員	参考数値に「かなライン」の周知を入れるとよい。	
16p 重点分野4	松田委員	グラフ「男女の平等感」では「男性優遇」、16ページは「平等」を用いているが、同じ県民ニーズ調査の結果なので、揃えた方がよい。	
資料2別紙「人権男女共同参画」	①県の審議会等における女性委員の割合	戸山委員	国の目標値にある程度合わせる事は必要だが、あまり設定を高くすぎない方がいい。現段階では40%が妥当な目標。審議会は適切な人選が本来目的なので、各審議会に合ったバランスがあればよい。
		松田委員	案の1の40%がよい。案の2の36%は少し低い。
		神尾部会長(まとめ)	将来的には50%だが、まずは他の都道府県に合わせて40%程で取組むのがよい。女性の活躍が加速している今、あまり低くない方がいい。40%を部会意見とする。
	②民間事業所の女性管理職(課長相当職以上)の割合	松田委員	案1の13%でも高い。まち・ひと・しごと総合戦略の目標値である11.5%でもよい。
		戸山委員	現実的には案1の13%がよい。ただし、全体との整合性を保ち、社会の追い風や民間と行政の違いを理解したうえでどこまでチャレンジできるかを反映してほしい。
		神尾部会長(まとめ)	女活法の追い風があり、あまり低い目標値ではなく、大企業の数値でもあることから、案の1の13%を部会意見とする。

資料名	該当箇所	委員名	意見
課が所管する目標（案）抜粋	③6歳未満の子どもを持つ夫の育児・家事関連時間	松田委員	職住接近を考えると、案2の150分より案1の105分／日がよい。
		神尾部会長、戸山委員	案1の105分／日がよい。
		神尾部会長（まとめ）	案1の105分／日を、部会意見とする。
	④25～44歳の女性の就業率	松田委員	案1の74%は低く、案3の77%は高い。70%程度がよい。
		戸山委員	目標を低めにする必要はないが現実的なところも踏まえてほしい。
		神尾部会長（まとめ）	意見を踏まえて、0.7%／年増で計算した案を作ってほしい。※72%になる（事務局注釈）。
	⑤夫婦間における行為（5類型）を暴力と認識する人の割合	松田委員	暴力の5項目を指標においているのは神奈川県が最多。このまま5項目で取り組んでほしい。
		神尾部会長（まとめ）	部会として資料のとおりで了承。
	⑥⑦「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という考え方に対する意識調査（全年齢、若年層）	松田委員	案2『「そう思わない」人が増加すること』がよい。強い口調より「そうは思わない」人を増やす流れを作ってほしい。
		戸山委員	案1『「そう思う」人が増加すること』がよい。データとしてわかりやすい。
		神尾部会長	案2がよい。「そう思わない」人が増えれば「そう思う」人は減る。
	⑧介護休業利用事業所割合	松田委員	どちらかを選ぶのであれば、事業所観点で見ると案1がよい。
		戸山委員	現在取れる統計はこれだけなら、それを目標値に反映した方がよい。現段階で案1を仮として目標設定自体を早急に検討して見極める方がよい。目標値にしないという判断もありえる。
		神尾部会長（まとめ）	若い人の介護休業取得は低いなど、事業所や職場によるばらつきが出る現状で目標設定自体が適しているのか検討してもらいたい。
	⑨女性活躍推進法に基づく推進計画の策定率（市町）	神尾部会長（まとめ）	部会として資料のとおりで了承。

②(6/1審議会まで)

番号	重点目標 (大柱)	施策の基本方向 (中柱)	分野	委員	意見	
1	1 あらゆる分野における男女共同参画	(1)政策・方針決定過程における女性の参画	女性議員	岩田委員	政治分野について最初から外さずに議論してほしい。	
8			審議会委員	白河委員	割合を上げるため、男女プランに強制力が必要。	
9			岩田委員	割合を上げるため、知事枠(知事のトップダウンで女性委員を入れる枠)を設けるとよい。		
10			吉田委員	大学教授から委員を選任する際、非常勤から選任することもできる。		
2			県職員女性管理職	神尾委員	県特定事業主行動計画の目標値(平成32年度に20%)を女性管理職の指標に入れてほしい。	
3				神尾委員	教員や警察官の目標値を女性管理職の指標に入れてほしい。	
4				岩田委員	女性管理職の指標は、高い数値目標値にしてほしい。	
5				戸山委員	セーフティネットを設けた上で、トップダウンで組織を変えてほしい。	
6				吉田委員	育児や介護のとき管理職から外れる制度があるとよい。	
7				吉田委員	「県女性職員の職員拡大と管理職等の登用推進」のために、根拠となる事業と職域拡大の指標をいれてほしい。	
11				自治会長・町内会長	松田委員	自治会長・町内会長の女性比率は、国と同じ10%をめざしてほしい。
12			吉田委員		自治会・町内会の役員に女性を登用して女性比率を上げてほしい。	
13			(2)あらゆる分野における女性の活躍促進	農業女性	松田委員	「農山漁村女性の日」の周知度を指標に入れてほしい。
14					戸山委員	女性の新規就業促進に関連し、キャリア教育の一環として、高校生・大学生向けのフィールドワークやインターンシップ等の産学連携事業があるとよい。
15				理工系	神尾委員	女性の参画が少ない分野の事業は、理工系女子以外にないのか。
16				防災分野	松田委員	災害時の女性の避難所設置のため、県内女子大、女子高と協定を結ぶとよい。
17					吉田委員	県の防災委員会の女性比率を上げてほしい。
18				松田委員	平日昼に家庭にいるのは女性が多いので、消防団で活躍してもらおうとよい。	
19				その他	松田委員	県立音楽堂改修にあたり、女性トイレや控室の整備など女性に配慮した施設にしてほしい。
20			(3)家庭・地域活動への男性の参画	男性の参画	戸山委員	かなテラスの男性セミナーは、話を聞くだけでなく受講者が互いに語り合い、話し合う講座にするなど、企画を工夫してほしい。
21					池田委員	男性の家事育児関連時間は、「時間」だけでなく「何をやるか」の内容が大切。
22					池田委員	男性の地域活動への参画は、きっかけを大切にしないと男性が入りにくいので、工夫が必要。
23	2 職業生活における活躍支援 ワーク・ライフ・バランスの実現	(1)職業生活における活躍支援	女性の就業	岩田委員	子育てのため退職した女性の正規雇用での再就職のため、ハローワークと連携し取り組んでほしい。	
24				白河委員	M字カーブ解消のため、結婚・出産のため退職した女性の再就職の際重点的に時給の高い仕事に戻れるよう企業に働きかけしてほしい。	
25				吉田委員	M字カーブの指標は、正規と非正規とで分けて出してほしい。	
26				岩田委員	M字カーブの指標は、25～44歳では広いので、30代に絞るなどしてほしい。	
27				戸山委員	結婚退職後の女性の再就職のための施策に取り組んでほしい。	
28				戸山委員	女性が離職後もトレーニングの機会があり、いつでも就労可能な雇用環境づくりに取り組んでほしい。	
29				戸山委員	仕事と生活の両立の推進事業は、話を聞くだけでなくワーキングマザーの語り場なども実施してほしい。	
30				松田委員	女性起業家の割合が県は常に30%を越えているので、プランで触れて欲しい。	
31				松田委員	旧姓利用やマタニティマーク周知度、応援団へのアイネット寄付について、プランで触れて欲しい。	
32				就業環境	白河委員	条例届出結果は企業名を公表してほしい。
33			戸山委員		企業訪問の際、女性活躍の取組みが遅れている企業へ指導するとともに、訪問による効果の調査分析をしてほしい。	
34			戸山委員		高校生等への労働教育は、就職支援ではなく、労働知識の教育に重点化してほしい。	
35			戸山委員		労働者側への啓発に取り組んでほしい。	
36			多様な働き方	岩田委員	非正規雇用、同一労働同一賃金や長時間労働の規制などは、神奈川労働局と連携し取り組んでほしい。	
37				神尾委員	同一労働同一賃金を企業に働きかけてほしい。	
38				松田委員	障がいのある人の雇用のため、在宅ワークを推進してほしい。	
39				吉田委員	LGBTや障害のある人など、多様な人が働くことができる社会について、プランで触れてほしい。	
40			(2)働き方改革の推進と新たなワークスタイルの創造	長時間労働削減	松田委員	「働き方改革推進本部・調整部会」の取組みや「家庭の日」について、県がPRしてほしい。
41	松田委員	テレワーク、サテライトオフィスを推進してほしい。				
42	戸山委員	会社支給PCの社外持ち出し禁止など、テレワーク普及を阻害する要因を解消するための取組みを進めてほしい。				
43	肥塚委員	企業の風土改革のため、男性管理職の意識改革について県が啓発してほしい。				
44	戸山委員	長時間労働削減だけではなく、自分の意思でもっと働きたい人のための取組みも進めてほしい。				
45	吉田委員	長時間通勤を解消するため、県内で働くことができる事業の創出に取り組んでほしい。				
46	戸山委員	「週労働時間60時間以上の雇用者の割合」の指標が国と乖離しているため、理由を調査分析してほしい。				
47	神尾委員	「週労働時間60時間以上の雇用者の割合」の指標は、現在は週60時間以上の残業は減っているため、36協定を踏まえて「月45時間以上所定労働時間」に係る指標にしてほしい。				
48	両立支援、ワーク・ライフ・バランス	松田委員			オリンピックに合わせてスポーツを巻き込んだワーク・ライフ・バランスに取り組んでほしい。	
49		松田委員			県の経済効果が上がるようなプレミアムフライデーの周知の取組みを進めてほしい。	
50		戸山委員			24時間営業を止めるなど、過剰サービスを止めた企業をワーク・ライフ・バランス推進企業として表彰する等するとよい。	
51	松田委員	県は朝食欠食率が男女とも高く、改善のための取組みが必要。指標にも入れてほしい。				

番号	重点目標 (大柱)	施策の基本方向 (中柱)	分野	委員	意見	
52				松田委員	いきいきと家事や地域活動をしているロールモデルを事例紹介してほしい。	
53	3 男女共同 参画の面 から見た 健やかで 安心な暮 らし	(1)あらゆる暴 力の根絶	DV被害者支援	松田委員	「夫婦における次の行為を暴力と認識する人の割合」の指標は男女別に統計を取ってほしい。	
54				松田委員	「配偶者等暴力の啓発」の指標は、目標値をもっと高く設定してほしい。	
55				松田委員	「かながわ犯罪被害者サポートステーションの周知度」や「かながわ 性犯罪性暴力ホットラインの周知度」を指標に入れてほしい。	
56					JKビジネス強化月間の取り組みは、毎年4月に継続実施してほしい。	
57			松田委員	JKビジネスについての啓発は、中学生から啓発してほしい。		
58			松田委員	ストーカー加害者へのカウンセリング指定医は、各市町村に最低1名指定してほしい。		
59			(2)困難を抱え た女性等に対 する支援	ひとり親支援	神尾委員	ひとり親家庭の貧困率に関する指標を入れてほしい。
60					松田委員	男性のひとり親に関する指標を入れてほしい。
61		松田委員			「ひとり親家庭夜間休日電話相談の実施」と「こどもSOSダイヤル」は子どもが利用できるように無料化し、双方の連携体制を取ってほしい。	
62		白河委員			子どもの貧困やシングルマザー等に向けた男女共同参画の施策が必要。	
63		高齢女性支援		白河委員	40代以降の無職女性は将来貧困に陥る危険が高いため、取組みが必要。	
64				岩田委員	シングルマザーへの取組みを進めてほしい。	
65		外国人女性支 援		諸橋委員	外国人女性や子どもたちとの共生に向けた取組みを進めてほしい。特に非常時に備えたセーフティネットやネットワー クの構築に取り組んでほしい。	
66				吉田委員	外国人女性の支援に取り組んでほしい。	
67	LGBT支援	白河委員	LG BTへの取組みを進めてほしい。			
68		松田委員	同性パートナーの結婚祝金・弔慰金制度を県庁でも実施してほしい。			
69	その他困難	芹沢委員	男女共同参画の入口に立っていない女性が経済的な困難を抱えていることが多いことについて、プランで触れてほしい。			
70	(3)生涯を通じ た健康支援	女性の健康	神尾委員	女性の健康に関連してリプロダクティブ・ヘルス/ライツの周知度についての指標を入れてほしい。		
71			男性の健康	吉田委員	「自殺者の減少」の指標は、目標値をゼロにしてほしい。	
72	4 男女共同 参画社会 実現に向 けた意識 改革と基 盤整備	(1)固定的性別 役割分担意識 解消のための 意識改革	一般向啓発	松田委員	クオータの周知度を指標に入れてほしい。	
73				松田委員	かなテラスの調査研究で、クオータについて周知してほしい。	
74				吉田委員	かなテラス調査研究は、情報発信する相手を分析したうえで実施してほしい。	
75				松田委員	一般向けの男女共同参画啓発を進めてほしい。	
76				松田委員	女子差別撤廃条約という用語の周知度を指標に入れてほしい。	
77				神尾委員	社会通念・慣習・しきたりなどでの平等を向上させるための取組みを進めてほしい。	
78				戸山委員	男女の平等感の格差による影響度(給与面、仕事面、上司との関係等における差など)を指標に入れてほしい。	
79				白河委員	大学キャリアセンターと連携しリカレント教育に取り組んでほしい。	
80				神尾委員	人権意識を高めるための意識啓発を充実させてほしい。	
81				(2)子ども・若者 に向けた意識 啓発	子ども・若者向 け啓発	戸山委員
82		吉田委員	若年層に対して選挙権についての啓発をしてほしい。			
83		松田委員	教頭以上の女性割合は、小・中で分けて目標数値を決めた方がよい。			
84		松田委員	教員向け研修で、クオータの研修を実施してほしい。			
85		松田委員	高校対象の男女共同参画に関するジェンダー統計を数年に一度は実施してほしい。			
86	(3)育児・介護 等の基盤整備	家事・育児	松田委員	託児室付事業を増加させてほしい。		
87			岩田委員	待機児童数は目標年度を定めてゼロにするという目標を入れてほしい。		
88			吉田委員	保育所と介護施設の一体化を検討してほしい。		
89			松田委員	家事代行支援の外国人女性数を指標に入れてほしい。		
90			松田委員	外国人家事支援事業に関連して、来日した外国人女性にサポートしてほしい。		
91		松田委員	県の各講座で、女性参加者には受講料割引等のポジティブ・アクションを検討してほしい。			
92		介護	神尾委員	介護離職者数に関する指標を入れて欲しい。		
93			松田委員	ダブルケアという用語を周知してほしい。		
94			神尾委員	介護制度についての企業への周知啓発を進めてほしい。		
95			吉田委員	「県職員の部分休業、育児休業及び育児休暇や介護休暇について、男性職員への取組みを進めてほしい。		
96	戸山委員		「県職員の部分休業、育児休業及び育児休暇の取得状況」は、人数でなく取得率100%を指標にしてほしい。			
97	5 推進体制 の整備・ 強化	(1)多様な主体 との協働	多様な主体との 連携・協働	松田委員	市町村交流職員による町村支援を進めてほしい。	
98				吉田委員	県と市町村が協働したモデル事業を実施してほしい。	
99				松田委員	大学や他都道府県との連携に取り組んでほしい。	
100				松田委員	市町村の優れた取組みをプランに入れてほしい。	
101	(2)男女別統計 の促進	男女別統計	松田委員	県の公表データは男女別のジェンダー統計にするため、指針を策定してほしい。		
102			神尾委員	男女混合名簿などは基本的な統計なので、県立高校以外も100%になるよう取組みを推進してほしい。		
103			吉田委員	ジェンダー統計の必要性を市町村に啓発してほしい。		
104	(3)進行管理	進行管理	松田委員	男女共同参画計画の策定率(市町村100%)を指標に入れてほしい。		